

天神島観察会研修後記

横須賀市 環境保全課 嘉山 晃

酷暑続きの8月7日、横須賀市地域水質保全協議会としては初めての海辺観察会を実施しました。

天気予報では1日曇りと絶好のコンディションと思われ、市役所から本町山中線、坂本芦名線と自然の緑に囲まれた道路を通じて天神島に向かい、早くもリゾート気分。

参加会員は講師萩原学芸員を含め10名。少し物足りない人数かと感じるも、フィールドでは全員の様子もわかるちょうどいい人数での開催となりました。

「ハマユウ咲く海岸がまぶしい！」

井上事務局長のあいさつ、萩原学芸員からの注意事項等の説明を受けた後、フィールドへ。

天神島だけに小さな島内に天神様が祭られていた。菅原道真公にお願いし、この観察会で賢くなれますように。海はベタ凧、海辺にはハマオモト（ハマユウ）が咲いていた。



《 おごそかな天満宮鳥居 》



《 ハマユウ咲く海岸の眺め 》

天気予報とは異なり晴天。日差しが痛い。「膝まで水に浸かると暑さが和らぐ」と萩原学芸員に事前に言われたとおり、海水パンツにこの日のために用意したアクアシューズで海に臨むと海水は少し生温いが気持ちいい

「特殊技能のカニを発見！」

自身の甲羅や足に藻を植え付けるカニを発見。周囲に溶け込んでいて、慣れている萩原学芸員ではないと見つけれないであろうと感心した。水槽の中を色とりどりにし、中に色とりどりの毛糸の端を入れておくと、ファンキーなカニが出来上がるらしい。ちょっと、試したい。

10 cm前後の赤く輝く目をした狂暴なカニも捕獲。食べたろうまそうだが、あまり身がないが出汁は取れそう。おっと、ここでは採取しても持ち帰られなかった。

干潮時はお昼の12時頃、観察している間にも潮がどんどん引いていく。磯だまりには数cmのハゼ科の小魚や南方の色鮮やかな小魚が見える。小さな巻貝が蠢いているのは、ヤドカリが新しい家を取り合っているところか。テツイロナマコがいた。ナマコがほんの浅瀬にいくつも見える



《 特殊技能のカニ君 》



《 赤く輝く目をしたカニ 》



《 色鮮やかな小魚たち 》



《 ユーモラスなナマコ君 》

お昼も近づき、ビジターセンターに戻る途中、ハマユウの自然自生地があった。

ハマユウの種子はスポンジ状になっており、潮に流された先の海辺で発芽するらしいが、自生地は少し高い位置にあった。おそらく、台風等により高波に流された種子が天神島のその一角に流れ着いたと思われるとのことで、ハマユウの生息北限の地が微妙に変わっていたかもしれない。



《 ひっそりと咲くハマユウの自生地 》

「プランクトンの動きに無我夢中！！」

昼食後、周辺海辺で採取したプランクトン（甲殻類の幼生等）を顕微鏡で観察した。

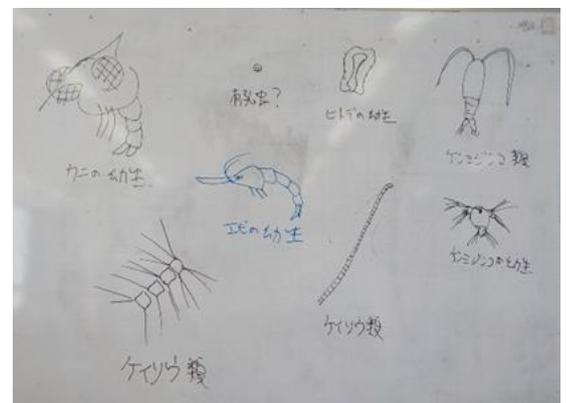
参加者全員がそれぞれの顕微鏡を操り、対象物の搜索、ピント調整に夢中となっていた。

ビジターセンター内の展示物、周辺で使われていた漁具、使い方と一緒に展示されるとなるほどと感心。

展示物で「これはっ！」というものを発見。天神島周囲の写真の展示だが、布にスクリーンプリントされたもの。左右に錘がわりの巻き取り棒があるが、一時的な展示利用の際は保管に便利と思われる。



《 時間の経つのを忘れた顕微鏡作業 》



《 萩原学芸員による生物の図解説明 》

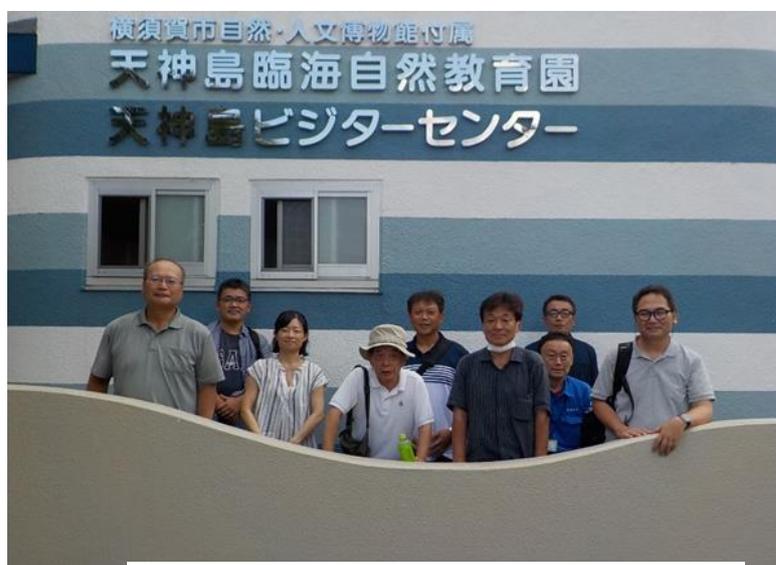
1 階には、今回観察会で会いたかったウミウシに直面できた。浅瀬では初夏くらいまでと言われているが、前日の親子観察会でシロウミウシが採取できたらしい。ぜひ、海で会いたい生物で羨ましい

【 観察会ふり返り 】

初めての海岸、岩場での観察会だったが、お天気にも恵まれ、河川とは違う海岸の自然満喫の研修会となりました。

参加者に聞くと「暑さ対策が十分であれば興味深い事業なので、もう少し早い時期の開催であれば参加したい。」の声もありました。

たくさんのウミウシがいる来春以降にまた訪れてみようかな。



《 ビジターセンター前で記念撮影 》